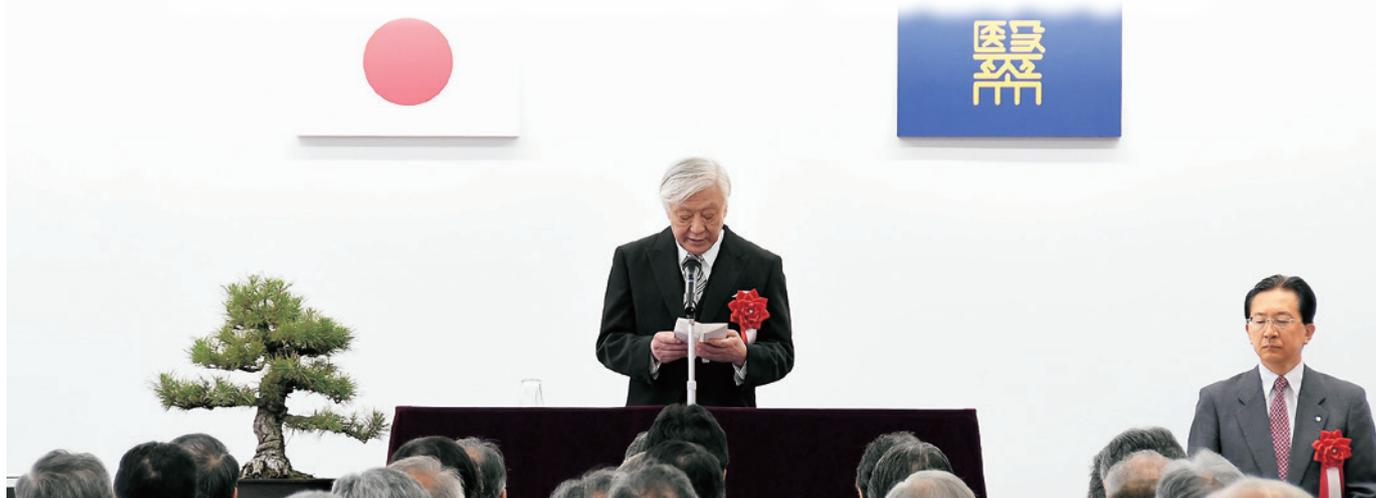


主な内容

- 特集—— 矢巾新病院 落成式典・祝賀会を挙行
- 移転事業情報—— 入院患者搬送計画と各種予行演習実施について
- トピックス—— 第40回市民公開講座が行われました
- フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.86
「慢性腎臓病 (CKD) の発症、重症化の予防を」
- 表紙写真：矢巾新病院とバナーフラッグ (関連記事p.11)



矢巾新病院 落成式典・祝賀会を挙行



■ 落成式典

平成 29 年 3 月に着工した附属病院新築工事はこのたび完成を迎え、令和元年 7 月 20 日（土）に矢巾新病院とトクタヴェールにおいて、落成式典並びに祝賀会を挙行了しました。

当日は、来賓、同窓生、本学教職員、工事関係者など総勢 340 名の出席を賜り、盛会裏に終了いたしました。ご出席賜りました皆様方には心より御礼申し上げます。

◆ テープカット

落成式に先立ち矢巾新病院正面エントランス前で、テープカットが行われ、新病院の完成を祝いました。

(左から：佐々木医学部長、三浦副学長・歯学部長、祖父江学長、達増岩手県知事、小川理事長、小林副学長、酒井副学長、小笠原附属病院長)



◆ 竣工式（神事）

その後は、矢巾新病院 1 階エントランスホールで竣工式（神事）が執り行われ、大学関係者や工事関係者が出席し、建設工事が無事故無災害で完了したことに感謝するとともに、新病院の堅固長久を祈願しました。



小川理事長による玉串奉奠



竣工式（神事）の参列者

◆落成式

午前 11 時からトクタヴェール 3 階講義室と 2 階職員ラウンジ（サテライト会場）において、落成式が執り行われました。小林副学長による開式の辞で始まり、小川理事長の式辞では、本学創立からの歩みと附属病院移転の経緯、建設に携わった関係者への感謝の言葉とともに新たな歴史を刻んでいく決意が述べられました。式辞の後は、株式会社日建設計の亀井代表取締役社長（日建設計・清水建設設計監理共同企業体）による工事報告があり、小川理事長から工事関係者への感謝状贈呈が行われました。

その後は、達増岩手県知事、寺野日本私立医科大学協会理事・相談役より御祝辞をいただき、校歌斉唱の後、三浦副学長・歯学部長による閉式の辞をもって閉式となりました。

〈開式の辞〉



小林副学長

〈式 辞〉



小川理事長

〈工事報告〉



株式会社日建設計 亀井代表取締役社長

〈御祝辞〉



達増岩手県知事



日本私立医科大学協会 寺野理事・相談役

〈感謝状贈呈〉



日建設計・清水建設
設計監理共同企業体（設計監理担当）



清水建設・宮城建設
共同企業体（建築担当）



朝日工業社・富士水工業
共同企業体（機械設備担当）



ユアテック・興和電設・岩館電気
共同企業体（電気設備担当）

〈閉式の辞〉



校歌斉唱



司会を務めた
根井アナウンサー



三浦副学長・歯学部長

◆ 特別内覧会

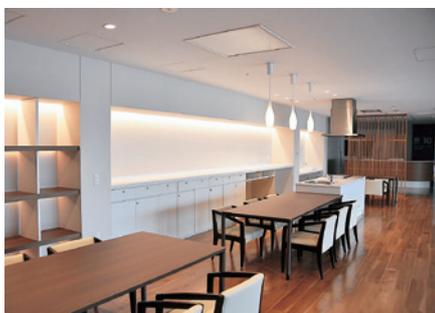
当日は、来賓者、工事関係者向けに特別内覧会が行われました。参加者は1階エントランスのエスカレーターで2階に上がり、外来待合スペースや外来診察室を回った後、4階では手術室・集中治療室、10階では緩和ケア病棟の特別個室やキッチンなどを見学しました。参加者からは、特別個室の華やかさがホテルのようだとの感想や10階からの見晴らしの良さに感激の声が聞かれました。



2階外来で設計担当者から説明を受ける見学者



4階手術室廊下



緩和ケア病棟ラウンジ



10階からの景色（東側）



緩和ケア病棟特別個室

■ 祝賀会

正午よりトクタヴェール1階フードコートと2階職員ラウンジ（サテライト）において祝賀会が行われました。酒井副学長の開会の辞に始まり、祖父江学長による挨拶の後、小原岩手県医師会長、高橋矢巾町長から御祝辞をいただきました。その後、鏡開き、佐々木医学部長による乾杯の音頭で祝宴の幕が開きました。祝賀会では、いわてフィルハーモニー弦楽四重奏による演奏が披露され、歓談に華を添えました。最後に、小笠原附属病院長による閉会の辞をもって閉会となりました。



開会の辞
酒井副学長



挨拶
祖父江学長



御祝辞
小原岩手県医師会長



御祝辞
高橋矢巾町長



乾杯
佐々木医学部長



閉会の辞
小笠原附属病院長



鏡開き



いわてフィルハーモニー弦楽四重奏

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第29回目の御芳名紹介です。(令和元年5月1日～令和元年6月30日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（6件）

<30,000,000>

株式会社 こすかたサービス（岩手県盛岡市）

<5,000,000>

医療法人社団 恵仁会 三愛病院（岩手県盛岡市）

<ご芳名のみ>

東京美装興業 株式会社（東京都新宿区）

久慈新港運輸 株式会社（岩手県久慈市）

医療法人 すまいる皮フ科クリニック（愛知県春日井市）

泉工医科工業 株式会社（東京都文京区）

●個人（25件）

<30,000>

船越 正行（父母）

<ご芳名のみ>

日下 純男（医14）

瀬尾 喜久雄（医23）

及川 博隆（医47）

岩橋 昌雄（父母）

星 豊（父母）

大内 怜次郎（医20）

安達 和仁（父母）

上原 至雅（名誉教授）

大橋 綾子（教職員）

吉田 政一（元教職員）

赤津 智也（医43）

清水 博（医23）

藤本 善行（父母）

新沼 エミ（父母）

菊池 利夫（父母）

三浦 弘行（父母）

海賀 貴志（父母）

若松 明（父母）

西野 賢二（父母）

水谷 啓司（父母）

宮崎 美恵子（父母）

川村 忠久（父母）

山浦 拓也（父母）

佐藤 隆幸（父母）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭 陵 会	911	585,495,089
在 学 生 ご 父 母	752	385,645,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	85	110,710,000
教 職 員	217	31,042,000
一 般	101	32,280,010
法 人 ・ 団 体	319	965,954,000
合 計	2,385	2,111,126,099

（令和元年6月30日現在）

附属病院移転カウントダウンミニ番組の放送について

標記テレビ番組が令和元年8月5日(月)から毎週月曜日、全12回にわたりIBC岩手放送において放送されます。番組では、附属病院移転の概要や入院患者搬送計画の詳細、入院患者搬送リハーサルの様子などについて、小川理事長や小笠原附属病院長のインタビューを交え、紹介する内容となっております。皆様方に、是非ご覧いただきたく、お知らせいたします。

放送局 IBC 岩手放送

- 番組名 「岩手医大附属病院移転 医の道拓く～つなぐ未来」
- 放送日 令和元年8月5日(月)から毎週月曜日18:55～19:00 全12回

放送回	出演	主な内容(予定)	放送回	出演	主な内容(予定)
① 8月5日	小川理事長	附属病院移転の概要	⑦ 9月16日	自衛隊・警察・消防	入院患者搬送時の連携
② 8月12日	小笠原附属病院長	入院患者搬送計画の概要	⑧ 9月23日	—	入院患者搬送ドキュメント
③ 8月19日	小山教授 (小児科学講座)	入院患者搬送計画(NICU・小児患者)	⑨ 9月30日	小笠原附属病院長	稼働を始めた矢巾新病院の概要
④ 8月26日	佐藤看護部長	患者ケアの視点からの搬送体制	⑩ 10月7日	下沖センター長 (内丸メディカルセンター)	内丸メディカルセンターの役割
⑤ 9月2日	田中教授(歯科放射線学分野) ※電子カルテ運用管理者	電子カルテの対応	⑪ 10月14日	小笠原附属病院長	受診のための手引き
⑥ 9月9日	吉岡教授 (放射線医学講座)	最先端の医療機器トレーニングの実際	⑫ 10月21日	小川理事長	新体制・本学の未来

※放送内容は変更になる場合があります。

入院患者搬送計画と各種予行演習実施について

本学附属病院では9月21日の矢巾新病院開院に伴い、約500名の入院患者さんを現附属病院（内丸）から矢巾新病院へ一斉搬送します。本稿では入院患者搬送計画の概要や各種予行演習の様子などを紹介します。

入院患者搬送計画の概要



- 患者搬送日 令和元年9月21日（土） ※雨天決行
- 内 容 現附属病院（内丸）から矢巾新病院への入院患者さんの搬送

■搬送に関する基本的な考え方

- ①全ての患者さん及びそのご家族の安全・安心を第一に考えた搬送を実施する
- ②病院移転期間中の地域医療への影響を最小限に留める計画とする
- ③現附属病院（内丸）から矢巾新病院へ円滑に移行出来るよう運用面も含めた計画的な移転を実施する

■搬送ルート

- ①救急車・自衛隊ルート
⇒国道4号線
- ②介護車両・中型バスルート
⇒国道46号線（盛岡西バイパス）

■想定搬送患者数：500名程度

（平成31年1月1日患者数：503名）

【搬送区分別患者数】

搬送区分	患者数	車 両
担送（ストレッチャー）	153人（31%）	救急車、自衛隊
護送（車いす）	173人（34%）	介護車両
独歩（徒歩）	177人（35%）	中型バス

※搬送体制や搬送方法等の状況により、搬送患者数は要検討

■搬送手段

救急車、自衛隊車両、
介護車両、中型バス

入院患者搬送予行演習の様子

- 日時 令和元年7月28日（日）8：30～14：00
- 内容 現附属病院（内丸）から矢巾新病院への模擬患者搬送

当予行演習では、本学職員が模擬患者となり、実際の車両を用いて現附属病院（内丸）から矢巾新病院への搬送を実施しました。当日は本学教職員の他、消防や自衛隊など各関係機関にもご協力いただき、約600名が参加する本番さながらの予行演習となりました。今回の予行演習で判明した課題を次回予行演習に活かし、9月の搬送本番に向け、着実に準備を進めていきます。



黒坂教授の挨拶



搬送用ストレッチャーへ乗せ替え



搬送車両へ移送し、矢巾新病院へ



矢巾新病院到着



搬送用ストレッチャーから乗せ替え



病棟へ搬送完了

矢中新病院運用予行演習（運用責任者向け）の様子

■日時 令和元年7月27日（土）14：00～17：00

■内容 模擬患者を動員しての矢中新病院運用体制の確認

当予行演習は、今後の予行演習が滞りなく進むよう運用責任者向けに開催され、職員を模擬患者として、医科外来・歯科外来・入院患者用の全21種類のシナリオパターンに従って行われました。参加者が実際に病院内を移動し、受付から会計までの患者さんの動線、電子カルテ端末およびシステムの操作などを確認することで、次回以降の予行演習や、開院を目前に控えた矢中新病院の運用体制への理解を深める機会となりました。



1階エントランスからそれぞれの担当フロアに向かう参加者



2階外来受付前で説明を聞く参加者



2階外来診察室



1階患者サポートセンター



8階病棟

各種予行演習の開催予定

今後の各種予行演習の日程について、以下のとおりお知らせします。

運用予行演習 (矢中新病院)

第1回

日時：7月27日（土）
14時～17時
対象者：運用責任者

第2回

日時：8月17日（土）
9時～12時
対象者：全病院職員1/2程度

第3回

日時：9月7日（土）
14時～17時
対象者：全病院職員1/2程度

運用予行演習（説明会） (内丸メディカルセンター)

第1回

日時：8月22日（木）
17時45分～19時
対象者：全病院職員1/2程度

第2回

日時：9月12日（木）
17時45分～19時
対象者：全病院職員1/2程度

入院患者搬送予行演習

第1回

日時：7月28日（日）
8時30分～13時
対象者：引越担当者全員

第2回

日時：8月31日（土）
7時30分～16時
対象者：引越担当者全員

※入院患者搬送予行演習には学外の協力機関も参加予定

安全対策講習会が行われました

安全対策講習会が、7月5日（金）から12回（録画映像による開催を含む）にわたって歯学部4階講堂で行われ、教職員延べ2,219名が参加しました。

講習会では、北里大学の新井正康先生を講師に迎え「Rapid Response Systemとは何か？なぜ必要か？」と題した講演が行われました。

参加者は、院内心停止（IHCA）数時間前に見られるバイタルサイン（VS）の変化を心停止の警告的前兆と捉え、そこに医療資源を集中させて、院内急変を未然に防ごうとするRapid Response System（RRS）について学び、理解を深めました。



有限会社遠野車輛工業様から 災害支援用トラックが寄贈されました

7月25日（木）、矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センターにおいて、有限会社遠野車輛工業様から災害対策用車両としてトラック「いすゞ エルフ」が贈呈されました。この車両は災害時地域医療支援教育センターを中心とした今後の災害医療提供体制の構築に役立つようにと、前回の「トヨタ アルファード」に引き続き寄贈されました。

当日は、有限会社遠野車輛工業の佐々木定雄代表取締役社長より車両を寄贈いただいた後、本学からは眞瀬災害時地域医療支援教育センター長より感謝状が手渡されました。

車両は主に災害時や訓練における衛星通信アンテナの運搬等に使用されます。遠野車輛工業様には、厚く御礼申し上げます。



左から：佐々木代表取締役社長、眞瀬災害時地域医療支援教育センター長

矢巾新病院の完成見学会が行われました

7月21日（日）、矢巾新病院において、一般の方々を対象とした完成見学会が行われ、約6,000名もの方がご来場くださいました。新病院に寄せる県民の期待の大きさが窺える見学会となりました。



1階エントランス



2階外来待合



4階手術室



7階小児病棟

オープンキャンパス2019:1,100名が参加

7月27日(土)・28日(日)の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス2019が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から1,000名を超える高校生や保護者が参加しました。

当日は、興味のある学部やテーマに分かれてのミニ講義、体験実習のほか、在学生とのフリートーク、教員による進学相談、学食の無料体験など盛りだくさんの企画が用意され好評を博しました。

参加した学生らは、大学生活に夢や希望を膨らませていた様りで、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようです。



ウェルカムアーチ



大学紹介



キャンパスモールの様子

第40回市民公開講座が行われました

今年で40回目を迎える市民公開講座(テーマ:新しい岩手医科大学附属病院とチーム医療)が、7月30日(火)から3日間にわたり矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われました。

今年の市民公開講座は、5講座が開講され、延べ800名の一般市民の方々が受講しました。受講者は熱心に聴講し、貴重な学習の機会となったようです。

▶ 7月30日(火)

「世界に冠たる新病院を目指して」

学校法人岩手医科大学
小川 彰 理事長



▶ 7月31日(水)

「これからの医療はどこへ向かうのか -岩手医大と総合診療の役割-」

岩手医科大学附属内丸メディカルセンター
下沖 収 センター長



「口腔から繋がる健康寿命」

歯学部 補綴・インプラント学講座
摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野
小林 琢也 教授



▶ 8月1日(木)

「あなたの知らない生活習慣病の世界 ~知っているようで知らない 生活と病の関係~」

看護学部 共通基盤看護学講座
三浦 幸枝 特任准教授



「我が国における医療の近未来と 新しい岩手医科大学附属病院」

岩手医科大学附属病院
小笠原 邦昭 病院長



新任教授の紹介

令和元年6月1日就任

補綴・インプラント学講座
摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野

小林 琢也 (こばやし たくや)

昭和49年8月3日生
岩手県盛岡市出身



研究テーマ

- ・口腔機能障害が脳機能と認知機能に及ぼす影響、咀嚼による認知症予防

主な著書論文

- ・咬筋活動により発生するネプリライシンの海馬への逆行性輸送
(Neuroscience Letters. 2019; 698: 180-185)
- ・歯の喪失が脳構造に及ぼす影響
(Journal of Prosthodontic Research. 2018; 62(3): 337-341)
- ・歯の喪失が空間記憶能と神経栄養因子に及ぼす影響
(Hippocampus. 2008; 18: 542-547)

趣味

料理、革製品集め、ラグビー観戦

教職員への自己PR

この度、摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野の教授を拝命致しました。高齢者の口腔機能を幅広く担当させていただく分野となります。高齢者の中には口腔や嚥下機能障害で悩まれている方が数多くいらっしゃいます。その原因は、口腔領域だけではなく脳血管疾患や認知症などの全身疾患が原因であることが多く、当分野の活動は、他(多)職種連携が非常に重要となってまいります。超高齢社会の変化に柔軟に対応した教育、臨床、研究を行いたいと思っております。また、皆様のご協力を得ながら、これまで本学で行っていない訪問歯科診療体制を整備し地域歯科医療の発展に貢献したいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

経歴

平成12年 岩手医科大学歯学部 卒業
平成16年 岩手医科大学大学院歯学研究科 修了
平成16年 岩手医科大学 歯科補綴学第一講座 助手
平成22年 同 歯科補綴学講座有床義歯補綴学分野 嘱託講師
平成26年 同 補綴・インプラント学講座 講師
平成27年 同 補綴・インプラント学講座 特任准教授
平成29年 ハーバード大学歯学部 客員准教授(～平成30年)
令和元年 岩手医科大学 補綴・インプラント学講座 補綴・インプラント学分野 准教授
令和元年6月 現職

令和元年7月1日就任

内科学講座神経内科・老年科分野

板橋 亮 (いたばし りょう)

昭和50年9月29日生
福島県会津若松市出身



研究テーマ

- ・超急性期脳卒中の診療、脳神経超音波学、脳卒中の神経心理学

主な著書論文

- ・段階的な戦略変化は血栓溶解療法の到着開始時間を15分に短縮し得る (J Neurol Sci. 2019; 403: 59-64.)
- ・急性期脳梗塞における左中心前回損傷は発語失行と関連する (Stroke 2016; 47: 31-36)
- ・東日本大震災前後での急性期脳卒中における奇異性脳塞栓症を含んだ心原性脳塞栓症の発症率 (Cerebrovasc Dis 2014; 37: 431-437)

趣味

読書、クラフトビール(醸造ではありません)

教職員への自己PR

内科一般の研修終了以降17年の間、一貫して急性期脳卒中診療に従事してまいりました。大学院に社会人入学し神経心理学の臨床研究も行いましたが、この度の着任が初めての大学勤務です。私の責務は本学における急性期脳卒中診療そして研究のさらなる充実に寄与する事と、脳と血管と心臓に精通したStroke Neurologistを育てる事と考えております。これらを通じて岩手県の脳卒中死亡率低下に貢献できればと思ひます。

経歴

平成12年 東北大学医学部 卒業
石巻赤十字病院内科 研修医
平成15年 国立循環器病センター内科脳血管部門 レジデント
平成18年 広南病院 脳血管内科医師
平成27年 同 部長 脳卒中ケアユニット室長(兼任)
平成28年 東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学 非常勤講師
平成30年 大阪大学大学院 行動神経学・神経精神医学 寄附講座招聘 准教授
平成30年 広南病院 副病院長(兼任)
令和元年7月 現職



救急・災害・総合医学講座の下山賢医師が第116回東北整形災害外科学会のCase Report Awardセッションにおいて、第1位を受賞しました

この度、第116回東北整形災害外科学会（2019年6月21、22日：岩手県盛岡市）のCase Report Awardセッションにおいて、発表した演題が第1位に選考されました。演題名は「骨盤輪骨折に対して脊椎インストゥルメントを用いISS後方固定を施行した2症例」です。高齢者の骨折の中で3番目に多いと報告されている高齢者骨盤輪脆弱性骨折に対して、Sacral alar-iliac screwを用いて従来のISS後方固定と同様に挿入し、ロッドで固定する「Locking ISS」を考案し施行した症例を発表させていただきました。従来のISS後方固定と同様の侵襲で、より強固な固定と合併症リスク軽減を実現する方法を、世界で初めて考案し施行したものとなっております。まだまだ拙い発表ではありましたが、余りあるご評価をいただけたことは今後の私の医師生活において非常に励みになりました。

今回の発表に際しては同講座の高橋学先生、菅重典先生を始めとした同医局員の諸先生方、土井田稔教授を始めとした整形外科学講座の諸先生より御指導いただきました。この場を借りまして改めて深く感謝申し上げます。

（文責：救急・災害・総合医学講座 下山賢）



理事会報告（6月定例－6月24日開催）

1. 教員の人事について

医学部 呼吸器外科学講座 准教授
出口 博之（前 同講座 講師）
歯学部 口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 准教授
泉澤 充（前 同分野 講師）
医学部 呼吸器外科学講座 特任准教授
友安 信（前 同講座 講師）
（発令年月日 2019年7月1日付）

2. 令和2年度学納金等について

3. 岩手医科大学職員就業規則の一部改正について

岩手県条例の改正に伴い、特別休暇である忌引休暇の内、姻族の父母が死亡した場合及び血族の子が死亡した場合の休暇日数を7日へ改正することを承認した。

JR矢幅駅前広場及び県道矢巾停車場線の街路灯にバナーフラッグを設置しました

本学では附属病院移転に伴い地域の方々への広報活動の一環として、JR矢幅駅前広場の街路灯7本にバナーフラッグを設置しておりましたが、矢巾新病院の落成を機にデザインを一新するとともに、JR矢幅駅東口から国道4号までの県道矢巾停車場線に新設された36本のデザイン街路灯にもバナーフラッグを設置しました。

新設されたデザイン街路灯は、夜間歩行者の安全確保とバナーフラッグの掲示による景観の向上を目的に矢巾町により設置されました。

新しいバナーフラッグは本学のシンボルマークにも使用される岩手医大ブルーと矢巾新病院の外観カラーでもある槐色を用いて、大学ブランドの一層の強化を図るとともに、景観との調和に配慮したデザインになっています。

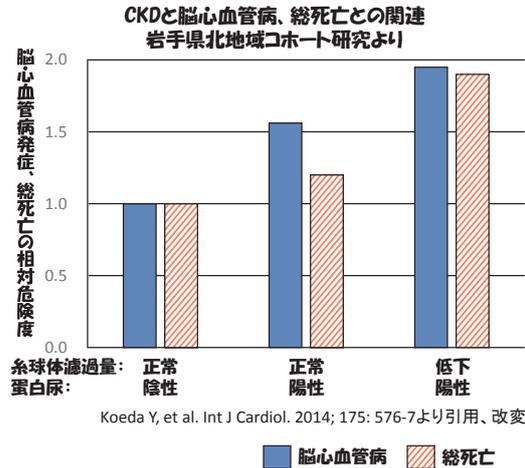


スポット医学講座

内科学講座腎・高血圧内科分野 准教授 田中文隆

慢性腎臓病 (CKD) の発症、重症化の予防を

慢性腎臓病 (CKD) とは、腎機能の低下や蛋白尿などの腎臓障害が3か月以上続いている状態をいいます。腎機能の低下とは腎臓から尿へ老廃物を排泄する能力を示す糸球体濾過量 (GFR) が60mL/分/1.73m²未満に低下することをいい、たんぱく質の老廃物の血中量の値である血清クレアチニン (Cr) 値を基に算出されます。蛋白尿は、検尿で尿蛋白濃度と尿Cr濃度を測定し、尿蛋白/尿Cr比0.15g/gCr以上を陽性と判断します。尿試験紙法で蛋白 (±) でも、約60%が実際に蛋白尿を認めるとされており、特に高血圧や糖尿病に罹患している場合は尿蛋白の定量を行うことが勧められます。近年、CKDは透析が必要な末期腎不全に至るのみならず、早期の段階から重大な脳心血管病発症や死亡に関連する病態として危惧されるようになりました。私たちも関わっている岩手県北地域コホート研究における平均5.5年間の追跡調査で、腎機能が保たれていても蛋白尿陽性の例では、脳心血管病発症が1.6倍、死亡が1.2倍増加し、さらに腎機能低下が伴うと脳心血管病発症が2.0倍、死亡が1.9倍増加することが明らかになりました (図)。現在、本邦で1330万人 (成人の8人に1人) がCKDに該当し、国民病のひとつと認識されていることから、CKDの発症と重症化の予防が唱えられています。



CKD発症の危険因子として、高齢、CKDの家族歴、過去の健診における尿や腎機能異常、鎮痛薬などの常用薬、膠原病、高尿酸血症、高血圧、糖尿病、肥満などがあげられますが、特に糖尿病、高血圧などの生活習慣病が背景因子となって発症するCKDが多いことが社会的に問題となっています。よって、CKD発症前からこれらの十分な管理やメタボリック症候群の予防などの生活習慣の改善を行い、CKDの発症予防に努めることが大切です。CKDは多くの場合無症状ですが、健診の血清Cr検査と検尿で把握することができます。腎機能や尿所見に異常のある場合には早期に医療機関を受診し、将来的な透析や脳心血管病などの重症化を防ぐことが特に重要です。

※大学報514号の訂正について

5ページの図中、**3**ホテルルートイン矢巾-岩手医大病院-と**4**やはばなかよし保育園の位置が反対になっておりました。訂正の上、お詫びいたします。

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

今号では、前号の新病院落成特集に引き続いて、落成式典・祝賀会の様子を紹介しました。トクタヴェールでの祝賀会では本学ご出身/ご関係の諸先生とお話する機会があり、皆様の熱い思いが伝わってきました。さらに、翌日の一般公開には六千名の方がいらっしゃいました。関心の高さ、期待の大きさが理解できます。病院部門の皆様はもちろん、移転に直接には関わらない教職員も、これまで以上にしっかりと大学を支えていかなくては、と強く感じます。

(編集委員 松政 正俊)

岩手医科大学報 第515号

発行年月日 令和元年8月31日
発行 学校法人岩手医科大学
編集委員長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 法人事務部 総務課
紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号
TEL. 019-651-5111 (内線5452, 5453)
FAX. 019-654-7563
E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp
印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp